



現代の高校教育政策を問う

—全国動向と北海道の現場から—

■ 登壇者

報告1 相澤 真一 氏 (上智大学)

「少子化時代における高校教育機会の全国的趨勢」

報告2 本多 由紀子 氏 (公立高校教諭)

「北海道における高校教育の現在
～政策の展開と学校現場の実態～」

■ 日 時：2026年3月29日（日）16:00～18:30

■ 開催方法：Zoom ■ 参加費：無料

■ 開催趣旨

少子高齢化の進展と地域格差の拡大のなかで、日本の高校教育は大きな変化を迎えており、「誰でも高校に通える社会」は、戦後日本の誇るべき成果であったが、現在では学校の統廃合、学科再編、ICT活用と遠隔授業の実施、広域通信制の急拡大といった現象が各地で生じている。これは単なる教育問題にとどまらず、地域社会の存続そのものとも深く関わっている。

本研究会では、高校政策をめぐるこうした複雑な状況を理解するため、マクロとミクロの2つの視点から報告をお願いしている。

第一に、『〈高卒当然社会〉のゆくえ』の著者である

相澤真一氏（上智大学）から、高校教育機会の供給構造について、地域的な差異を踏まえた全国的な動向をお話しいただく。

第二に、本多由紀子氏（公立高校教諭）から、縮小社会の先駆けとも言える北海道の実態を踏まえながら、高校現場の課題をお話しいただく。

研究会では、このマクロな構造分析と、北海道という先端的な現場の声を踏まえながら、フロアを交えた意見交換を図りたい。無償化や教育課程の柔軟化といった政策も視野に入れつつ、戦後日本の高校教育をいかに持続可能なものとして再構築していくか、考察を深める場にしたい。

■ 参加申込について

会員の皆様は事前申込不要です。後日、学会事務局からメールにて参加案内をお送りいたします。

会員以外の方は[参加申込フォーム](#)(ないしは下記QRコード)からお申込みください。
【申込期限：2026年3月26日(木)23:59】

会員以外の方
向け→



■ お問い合わせ先
日本教育政策学会研究推進担当理事

横井敏郎（北海道大学）
e-mail:
jasep.11th.ps@gmail.com